キリスト教保育

2021年12月1日発行（毎月1回1日発行）第633号

年主題
共に喜んで
～すべての歩みの中～

巻頭言
クリスマスを迎える思い
黒米理恵

論説
子どもの運動能力と遊び
杉原隆

礼拝のお話
富田直美

2021 DEC 12

そして見つけたら、喜んでそれを自分の肩に乗せ、家に帰ってきて友人や隣り人を呼び集め、『わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけましたから』と言うであろう。　口語訳聖書・ルカによる福音書15章5-6

クリスマスが、いつまでも子どもの心に残るために、その〈意味〉を深く探ることから出発したいと思います。そのようなことを考えながら今月の聖句を選んでみました。

主イエスがお生まれになった時、両親は幼子に「インマヌエル」と名付けるように命じられました。「神われらと共にいます」という意味です。

主は、その名の通り、失われた人々と共にいて下さいました。徴税人や罪人たちと「共に」食事をしたり交際したりなさいました。汚れたもの、罪深いものを、極度に分離しようとするファリサイ派の人々や律法学者たちは、こういう主イエスを非難しました。それに応えて、主は「見失った羊」のたとえ話をお語りになりました。

人の眼に隠されている小さいもの、貧しいものに眼を向けること。「見失った」ものに対する優しいまなざし。主イエスのたとえ話にあるように、見失った羊を探し回り、それを見出して喜ぶ「神の喜び」。そこにこそクリスマスの〈意味〉があります。

クリスマスの〈行事〉中で、子どもたちに経験してほしいのは、このような「神の喜び」です。この経験を子どもたちの心に残すために、どれほど祈り、どのような工夫をしているのでしょうか。もらって喜ぶだけではなく、「喜び」を分かち合う経験を味わうために、どんな工夫があるでしょうか。

今の世の中は、「見失った」一匹よりも、安全で、無難な九十九匹の羊を大切にする世の中です。子どもたちは、そのような世の中に入って行き、やがてそれが当たり前だ、と思うようになるかも知れません。それだからこそ、主イエスが何を探し求めておられるのか、神が何を「喜び」としておられるのかを、幼い日に経験しておいてほしいと思います。

このように考えると、クリスマスは、単に年中行事の一つではなく、キリスト教乳幼児教育の、無くてはならぬ大切な一コマだと思うのです。

（岡本不二夫・執筆　当時・日本キリスト教団平塚教会牧師　附属平塚二葉幼稚園園長）

1986年『キリスト教保育』誌 12月号より

一部省略、要約してあります。新共同訳聖書では、ルカによる福音書15章5-6です。

キリスト教保育

第633号12月号

年主題

共に喜んで

～すべての歩みの中～

幼子とともにキリストへ　2

目次　3

〈巻頭言〉
クリスマスを迎える思い　黒米理恵　4

〈論説〉
子どもの運動能力と遊び(1)　杉原隆　6

〈小論〉
子どもと環境(1)　木村歩美　14
クリスマスの礼拝　木村章子　19
聖書にきく・お話　後宮　敬爾　22

【カリキュラム】
12月　月のねがい表　25
心にとめて　大橋愛子　26
0・1・2歳児　愛泉保育園　28
実践からの学び　湯元睦美　34
子どもと賛美するために　35
心にとめて　田中洋子　36
3・4・5歳児　葛飾こどもの園幼稚園　38
実践からの学び　木村創　45

〈連載〉保育する人々への12のエール　石丸　昌彦　46

〈連載〉音楽って、すごい！楽器って、すてき！　桃原和子　48

図書紹介　廣田雅子　相川由紀子　53
目福　口福　耳福　岩下佳代　54
礼拝のお話　富田直美　55
風　山中正雄／編集子　東義也　65
連盟だより　66

表紙絵　田中槙子
カット　長野祥三　長縄えいこ
中畝治子　松成真理子
金井ユリ